平成31年度（令和元年度）

藍住東小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

たしかな学力をはぐくむ学習指導の充実

― 自分の思いや考えを伝え合う力の育成 ―

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	**委員**	校　長	川端　通俊	3年主任	野村みどり
教務主任		教　頭	桒田　敏宏	４年主任	宮本　真吾
吉山　京子		研修・6年主任	小倉　晃子	5年主任	和田　淳子
		１年主任	三好　展代	特支主任	和田こずえ
		２年主任	岩井　実香		

校長

川端　通俊　印

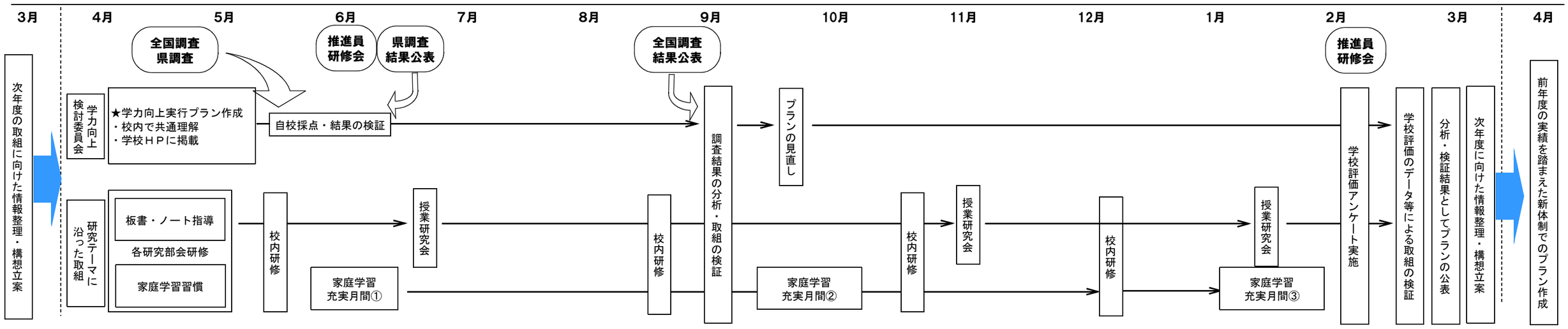
（１）基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況		具体的目標（めざす子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	漢字の読み書きや計算の基礎・基本についてはある程度の定着が見られる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身についている。 ②語彙数が増え，正確に文章を読んだり書いたりすることができる。 ③注意深く話を聞き，内容を理解することができる。	・学期末の漢字・計算テストで正答率を低学年90%，中高学年80%以上にする。 ・全国調査・ステップアップテストで平均正答率が県平均以上にする。		①ドリルタイムに漢字・計算の練習に取り組み，単元ごとに小テストを行い，学期末のテストに備えた。 ②毎日の日記指導や各教科のノート指導を行った。 ③学校全体のルールを掲示して示すだけでは徹底できなかった。	・　国語，算数とも，多くの設問で県平均を上回っているが，以前学習した計算のきまりを忘れて，単純な計算をミスしているものもいる。
		具体的方策（教員の取組）	**取組指標**		**評価**	**次年度における改善事項**
課題	・語彙数が少なく，問題を読み取る力や文章を書く力が弱い。 ・聞く態度やその他の基本的な学習ルールが充分でない児童がいる。	①ドリルタイムに漢字や計算を継続的に指導し，確認テストを行う。 ②学校全体で，学習ルールや聞き方話し方名人を見直し活用する。 ③日記やノート指導の充実をする。	・定着確認テストを単元ごとに行い，成果を把握し指導に生かす。 ・良いノートのモデルを掲示したり，１週間に全員のノートを点検したりする。		B	・　単元テストで結果が残すことができていても，長い範囲の問題になると定着していないところが見られる。今後，学力向上確認プリントのさらなる活用や週末の宿題に以前の学習範囲のものを出すなどして定着を図りたい。

（２）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		具体的目標（めざす子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	・ペアやグループ学習などでは，自分の思いや考えを発表する児童が育ってきている。	①自分の思いや考えを整理して伝え合うことができる。 ②進んで本を読み，知識を増やし想像力を高めることができる。	「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」（児童質問紙）の割合を60%以上にする。	何が書かれているかを的確に捉えさせるために，アンダーラインや囲みをさせる。	①全校で1分間スピーチに取り組み，授業では学習形態の工夫も積極的に行った。 ②朝の読書タイムは全校静かに読書をしていた。	・　国語の条件を満たして書く問題，算数の文意を読み取って解く問題が不十分であった。
		具体的方策（教員の取組）	**取組指標**		**評価**	**次年度における改善事項**
課題	・自分の考えや思いを筋道を立てて説明したり文章に書いたりすることに課題がある。 ・文の内容を正しく読み取る力をつける必要がある。	①朝の会の１分間スピーチなど表現する機会を意図的に設ける。 ②学習方法や形態を工夫し，自分の考えを筋道立てて書いたり話したりする機会を増やす。 ③読み聞かせや読書の時間を確保する。	・筋道を立てて自分の考えを発表する機会を一週間に1回以上設ける ・読み聞かせを毎週一回は行う。		B	・　これまでは各学年に任せているドリルタイムの内容だが，一定時間は学校全体の達成状況を鑑みて長文読解にしたい。（週5回のうちの，２回程度） ・　読書タイム以外の読書活動の充実を図り，読書意欲を喚起する。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		具体的目標（めざす子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	・宿題を提出することや朝の読書は定着してきている。 ・与えられた課題にまじめに取り組む児童が多い。	課題や自主学習に積極的に取り組み，学ぶ楽しさや喜びを感じ取ることができる。	・学年に応じた家庭学習時間（学年×10分）以上取り組む児童を80%以上にする。 ・宿題の提出率を90%以上にする。	３年生以上の自主学習ノートを充実させる。	①「学習ヒント集」を出して，学年に応じた学習内容や学習時間を示して実践させている。 ②自主学習ノートの手引きを作成して，	・　学年に応じた学習時間を80%以上の児童が達成できているが，学年が上がるにつれて個人差がありできない児童も増えてきた。
		具体的方策（教員の取組）	**取組指標**		**評価**	**次年度における改善事項**
課題	・学習に根気強く取り組んだり疑問に思ったことを進んで追求しようとする意欲が少ない。 ・学習準備がきちんとできない児童がいる。	①取り入れた体験活動で得た興味関心を学習意欲につなげる。 ②ICTを効果的に活用する。 ③宿題の出し方を工夫するとともに「学習ヒント集」を活用して家庭への啓発を進め，家庭学習の習慣化を図る。	①一週間の中で，全ての児童の意欲的な活動を賞賛する。 ②家庭学習の状況を調べ，学期に1回は学年通信等で保護者への協力を呼びかける。 ③学習ヒント集をもとに学期ごとに振り返る。		B	「学習ヒント集」を家庭学習のできにくい児童には，学年の最初だけでなく2学期3学期も示して指導するなど，よりきめ細かな指導の必要性を感じる。

平成31年度　学力向上ロードマップ